



友達登録は
こちらから



PC・スマホ フィーチャーフォン



特集

広報おうめ 5・8・15 (3)



杉本健吉画伯をよくご存じで、いろいろ教えていただきました。杉本画伯の地元にある杉本美術館が一昨年の10月に閉館になったことも教えていただきました。

山梨の笛吹市から来られた方は、記念館をよく知っておられて、1年半閉館していた

ことも知っていました。コロナ禍もあったが、やっと来ることができましたということを知って、根強いファンがいるんだなと感銘を受けました。そういう方との一期一会というか、出会で教えてもらうことも多々あり、非常にやりがいがあります。(岡)

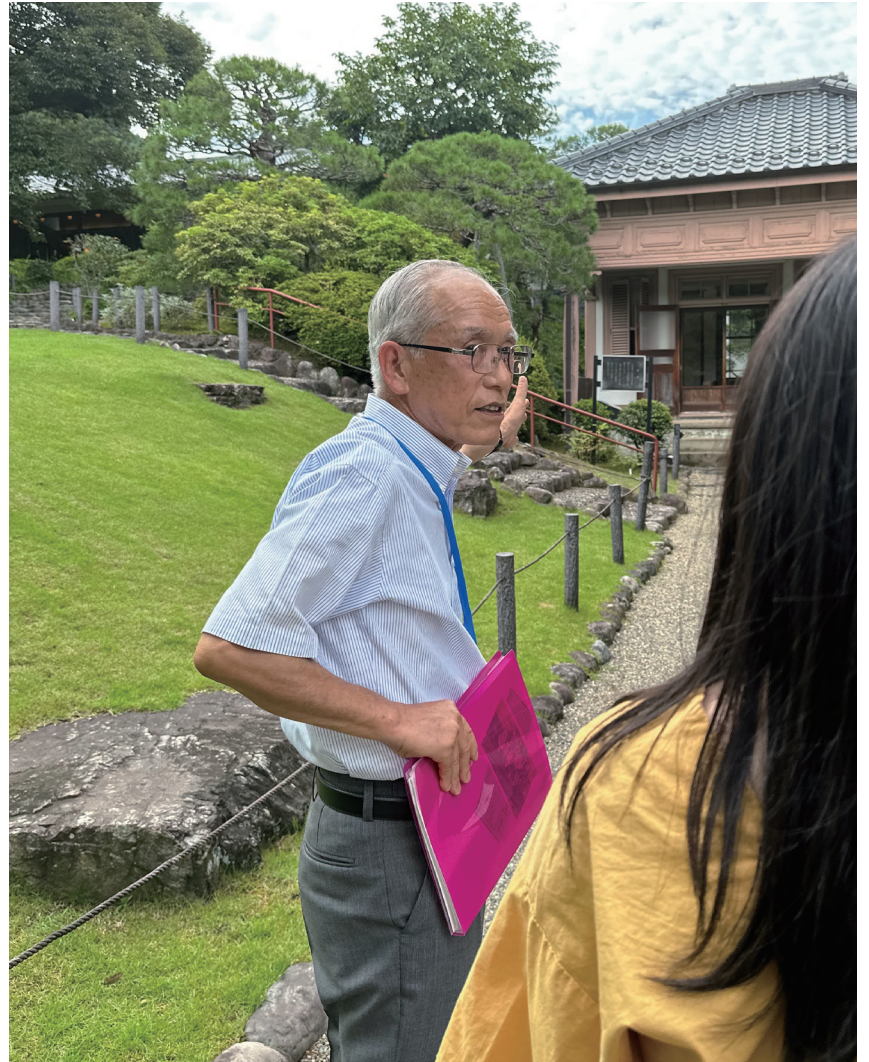
記念館庭園は秋の紅葉がすばらしい

一 記念館内の見どころを教えてください。

主屋には先生が「新・平家物語」を執筆していた机があります。ぜひ、その机の前に座って大作家の気分になってもらいたいですね。館内の庭園には、夏にレンゲショウマが咲きます。一番のおすすめは、紅葉のシーズンです。展示館口ビエの椅子に座って、前面のガラスを通して庭園を見ると、樹齢600年の椎の大木とその右側の紅葉がすばらしいです。大きなガラスで、まるで屏風絵を見ている気持ちになります。また、記念館を外から見るのも楽しめます。吉野街道側の駐車場からライトアップされた紅葉や、記念館裏の愛宕神社から見る記念館裏門と紅葉です。杉皮葺きの小さな裏門とその上を覆う紅葉は、すばらしいフォトスポットだと思います。(岡)



△「新・平家物語」を執筆した机(主屋内)



に伝わっていかないんですね。できるだけ早くそういう資料を発掘して後世につなげたいと思います。(岡)

先生が「機織物」、「みがき丸太」「ワサビ」といった地域の事柄を使って作詞し、監修した「吉野音頭」という青梅市の民謡を、館内のすばらしい庭園で地元の老若男女の方に踊っていただけないかなと思っています。歌詞中の事柄は現在とはまるっきり違うかと思いますが、これから子供さん、またお孫さんの方に伝承していければいいかなと思っています。(太田)

先生の資料・エピソードを後世につなげたい

一 今後のガイド活動でやりたい・目指したいことがあれば教えてください。



吉野村時代の先生についての資料とか、エピソードを調べたいと思っています。皆さんにもお話しする材料を作りたいと思っています。

先生と吉野村との関係について、関わった人もお亡くなりになり、両親の代はあった資料が、亡くなった後捨てちゃったとか、資料なんかも段々となくなっていくような気がします。そういった資料があったら、ぜひ教えていただきたいなと思っています。そういうことをきっちりしないと、次の世代

記念館の庭園や建物についての説明をはじめ、展示館内のさまざまな資料、先生と一緒に写っている作家の方々とのエピソード、あるいは、作品などについてうまく説明できるようになりたいと思っています。

また、記念館を訪れた子ども達に、かつて青梅に住んでいた先生が、どのような作品を書き、また、どのような作家だったかなどを説明し、子ども達が、「青梅にそんなすごい作家がいたのか」と興味や関心を高めてくれるようなガイドができればいいなと思います。(吉村)

今回のインタビュー動画を公開しています。右の2次元コードまたはYouTube市公式動画チャンネルをご覧ください。



青梅市吉川英治記念館イベント

9月7日は英治忌

「英治忌」は、国民文学作家・吉川英治を偲ぶ重要な行事として昭和54(1979)年、吉川英治18回忌の時に主屋で初めて開催されてから、地域の方々や来訪者に親しまれています。

今回も、吉川英治の写真を主屋に飾り、また、杉本健吉画伯の「涅槃図」などを特別に公開します。

※今年度から9月7日当日は観覧無料

日時 9月7日(木) 午前10時～午後5時

- 内容 ▷吉川英治写真パネル等を屋外通路や主屋内に展示
- ▷英治忌限定の生菓子・「菊一花」および紅梅まんじゅうの販売
- ▷お茶会を開催し、お点前の披露および英治忌限定の生菓子の提供(有料)



講談「玉川上水物語」

日時 9月17日(日)
午後2時～2時30分(1時30分開場)

会場 吉川英治記念館主屋内
対象 市内在住・在勤の方
内容 玉川兄弟、羽村から江戸までの水の道を作る

講師 菊地玉雲氏

定員 先着30人

申し込み

19日から電話で青梅市
吉川英治記念館へ

※別途要観覧料

